

# NEWS RELEASE

2024年11月28日

## 国立公園三瓶山麓で有機米を収穫、初収穫したお米の報告試食会を開催

－ 中山間地域で紙マルチを使った有機米栽培の有効性を評価、次年度増産に意気込み －

島根県大田市(市長:楢野弘和、以下 大田市)と三菱マヒンドラ農機株式会社(本社:島根県松江市、CEO 取締役社長:齋藤徹、以下 三菱マヒンドラ農機)は、本年、有機米の産地づくりに関する連携協定を締結し、同地域にて紙マルチ田植機を使った有機米の栽培を行ってきました。11月28日、本取り組みで有機米が初収穫されたことを受け、市長及び三菱マヒンドラ農機社長が出席する報告試食会を実施しました。

大田市と三菱マヒンドラ農機は本年5月に有機米の産地づくりに関する連携協定を締結し、国立公園三瓶山麓で紙マルチ田植機を使用した有機米の栽培に協力して取り組んでいます。連携協定初年度の本年は、三瓶地区の5経営体(2.53ha)がこの取り組みに参加し、同機を利用した有機米栽培を実施しました。

市役所で開かれた報告試食会では、始めに島根県西部農林水産振興センターの久泉技師から本年の栽培結果に関する報告があり、収量は332kgで過去5年と比較して増収であったこと、また、食味は4経営体で80を超える平均81の高スコア\*となり、反収・食味ともに例年以上の成果を得ることができたことが発表されました。今回栽培された有機米は生協などで販売が予定されています。\*70以上が良食味

続いて、本年の実証栽培に参加した農事組合法人百姓天国の三島代表理事からは「今まで様々な雑草対策を行ってきたが、なかなかこれといった効果が出なかった。紙マルチは課題となる点もあったが、除草作業が不要になるメリットは非常に大きかった。また、保水力がない圃場や農業用水が少ない場所でも栽培できるので、面積拡大が容易な点も大きなメリットだ。有機面積拡大の大きな推進力になる」と、紙マルチ栽培に対する評価や今後の規模拡大の意欲などを述べられ、「試食いただけるということで喜んでいる、自信と責任をもって育て上げたお米をゆっくり召し上がっていただきたい」と話しました。



収穫した有機米を持つ (農)百姓天国の三島代表理事

その後、大田市の楢野市長と三菱マヒンドラ農機の齋藤社長が、大田市温泉津町の椿窯で作られた茶碗に盛られた有機米を試食。平安時代の文徳天皇も「これは甘露なお米だ」と評価したという三瓶の有機米に舌鼓を打ち、「ご飯だけで食べても甘くて本当に美味しい」と顔を綻ばせました。



試食の様子（左から 大田市 楢野市長、三菱マヒンドラ農機 齋藤社長）

本年度の取り組みについては、今後もデータ収集などを続けることとしており、得られたデータは来年度以降の生産に生かしていくこととしています。大田市と三菱マヒンドラ農機は今後も有機米の産地拡大に協力して取り組み、付加価値の高い有機米の安定生産実現を通じて、持続可能な地域社会構築に貢献できるよう取り組んでまいります。

#### [関連リリース]

- 2024.5.1 島根県大田市と三菱マヒンドラ農機が有機米の産地づくりに関する連携協定を締結  
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000005.000116205.html>
- 大田市と有機米の産地づくりに向けた活動を開始 紙マルチ田植機の実演研修会を実施  
[https://www.mam.co.jp/news/pdf/topics\\_20240521.pdf](https://www.mam.co.jp/news/pdf/topics_20240521.pdf)